



IAFリオデジャネイロ総会報告会

IAF TC報告

公益財団法人 日本適合性認定協会
認定センター
中川 梓

報告項目

- IAF TCの活動
- 主なワーキンググループ/タスクフォース
- 主な議論

IAF TC (技術委員会)

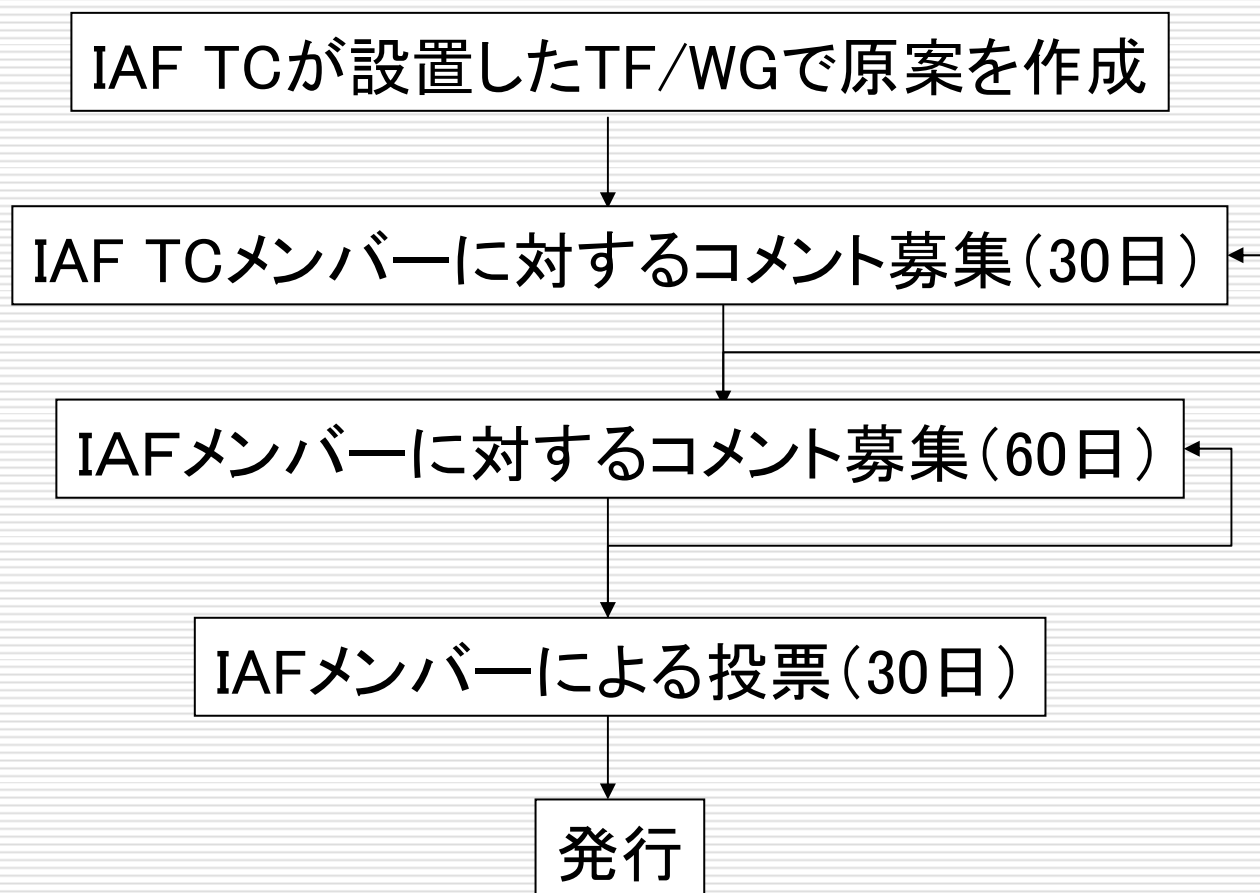
□ 活動

- IAF文書の開発/維持/改訂を行う。適合性審査を一貫性のあるものにするを目的
- 必要なIAF文書を開発するために、関連する利害関係者のグループを形成する
- IAF外での認定規格やその他類似文書の開発をモニターし、IAFとして考慮あるいは開発に参加するかどうかを決める
- IAF相互承認の運用から生じた問題を含め、IAF文書の適用に関する推奨を行う

□ 年2回開催

- 総会開催時およびTC会議のみ
- タスクフォース/ワーキンググループ会議および全体会議

IAF文書発行の流れ



IAF文書の種類

- MD: Mandatory Document(基準文書)
 - 認定機関が、認定を一貫性をもって同等の方法で実施できるように定めるもの。
 - 要求事項
- ID: Informative Document(参考文書)
 - IAFメンバーが認定スキームを開発/改善するための情報を提供する。

主なタスクフォース(TF)/ワーキンググループ(WG)

- WG for Person Certification (ISO/IEC 17024)
- WG on Forests
- WG on ISMS (ISO/IEC 27001)
- WG on ITSMS (ISO/IEC 20000)
- WG for Product Certification Accreditation
- WG on ISO 13485 QMS for Medical Devices
- WG on Food
- WG on GHG (ISO 14065)
- WG on Management Systems Certification

主なタスクフォース(TF)/ワーキンググループ(WG)

- TF on Indicators of CB Performance
- TF on Competence of Accreditation Assessors
- TF on Cross Frontier Accreditation
- TF on Assessment of CBs for Competence
- TF on Audits of Combined and Integrated Management Systems
- TF on EMS scope
- TF on Multi-site Certification without Sampling

認定審査員の力量に関するTF

- 目的
 - 認定審査員の力量を向上させるために発足。関連のIAF文書作成が最終的なゴール。
- 活動の概要
 - 2009年にJob Task Analysisという手法を用い、ISO/IEC 17011で求められる認定審査員の業務の分析を行った。
 - この結果をベースに、認定審査員の力量に関するIAF MDの草案を作成。
 - 2013年2月にマネジメントシステム認証に関与する認定審査員を対象とするJob Task Analysisを実施する。

国外認定(Cross Frontier Accreditation)に関するTF

□ 目的

- 国外で行われる認証活動に対し、適切に認定審査が行われるようにすることが目的。

□ 主な議論

- 国外認定のための審査に関するIAF MD案を作成。既にTC内30日コメントが終了。
- 今回の会合で、主に以下が確認・提案された：
 - 認証機関の海外拠点が、本社との関係・契約形態に関わらず、認定審査の対象となる。
 - 主要な活動(key activity)に限らず、認証活動全般が、認定審査の対象となる。
 - マネジメントシステム認証に限らず、製品認証等、MLAの範囲を対象とする。

認証機関のパフォーマンスの指標(indicator)に関するTF

- IAF MDを作成中
 - IAF TCメンバー内でのコメント募集を2回実施。

- 文書の概要
 - 認定機関が、認定を受けたマネジメントシステム認証機関に対し、定期的に“指標(indicator)”の報告を求める。
 - 指標として、認証数、審査員数、審査工数(標準工数との差)、認証移転の受入れ数などの情報を集める。
 - 認定機関は、収集した情報を認定審査プログラムの調整に活用する。

- ➔ 指標としての情報の例を附属書(参考)に示すことに関し、意見が分かれたが、TCメンバーで投票を行った結果、附属書を保持することとし、IAF内60日コメント募集へとすすむ。

認証機関の力量に対する審査に関するTF

- 設立の経緯と目的
 - 2つの認定機関の判断結果にばらつきがあったので整合をはかってほしい。
 - 認証機関の力量をどのように評価するかを検討し、IAF文書を作成する。
 - 文書の主な内容
 - ISO/IEC 17021に基づく認証機関の力量管理の審査のためのMDを作成する。
 - 力量とは意図した結果を達成するための知識・技能を適用する能力であり、これを評価することが重要。技術的な専門知識を評価するのではない。
 - 認証機関が意図した結果を生み出している場合、力量の基準を決定するプロセスが効果的であると実証される。意図した結果を生み出していない場合、プロセスが効果的でないか、力量の評価が適切に行われていないということになる。
- 既に投票を終了し文書発行待ち。TFは終了する。

複合/統合されたマネジメントシステムに対する審査に関するTF

□ TF設立の経緯と目的

- IAF MD5では、統合されたMSに対し複合審査を行う場合は、審査工数低減の要因となるとされているのみ。EAやTGAでは詳細な指針を作っている。IAFでも詳細な指針を示し、国際整合を図ってほしい。
- 統合されたマネジメントシステムに対する審査のためのIAF文書を作成する。

□ 文書案の概要

- integrated(統合)された マネジメントシステムに対する審査に関するMDを作成
- EA-7/05の内容をもとに、認証の各段階での配慮事項、審査工数調整の考え方を示す。

EA-7/05: EA Guidance on the Application of ISO/IEC 17021 for Combined Audits
<http://www.european-accreditation.org/n1/doc/EA-7-05.pdf>

- ➔ IAF内のコメント募集手続きを終了し、投票に進める状態。

(現在投票中)

EMS認定分野に関するTF

□ 目的

- EMSの認定範囲を検討する。

□ これまでの議論

- 現行の運用は、QMSと同じ39分類、リスクによる分類、スコープなしに分類される。多くの認定機関が39分類を採用。
- 現行の運用を大きく変えることなく、シンプルで理解しやすい分類が望ましい。
- ➔ IAF ID1(39分類)を基本とし、リスクレベルを示す形の提案をする。

サンプリングが適用されない複数サイト組織の認証に関するTF

□ 目的

- 複数サイトサンプリング技法が適用できない複数サイト組織の認証をどのように取り扱うかを議論。
- MSを対象とするIAF MDを作成する。

□ これまでの議論

- 航空宇宙QMSの認証構造(multi-site、campus、several site、complex)を参考として検討を開始。しかし複雑である上に、円滑な運用は未だ難しい状況。
- 組織の形態は多様であり、一時的サイトが重要な組織もあるため、従来の「サイト」の概念で審査を計画するのは不適切な場合もある。
- いかに審査の計画を行うか、計画にあたり十分な情報を集めることができるかが重要。
- ➔ 出発点として、複数サイト組織の審査を計画するにあたり、取り上げるべき事項を認証のプロセスに沿って確認し、それに基づき文書案を作成することとする。

マネジメントシステム認証に関するWG

□ WGの概要

- MS認証の信頼性向上のために設立された(MS認証の信頼性に関するWG)。
- MS認証に関する事項を広くカバーできるよう名称を変更。
- JABではこれまでにJIRECの活動報告等を実施。

□ 今回の議論～前回のTCでの審議文書から

- 認証機関とコンサルタント会社が同じブランド/名前/ロゴを使うことが、ISO/IEC 17021の“結びつけてのマーケティング”にあたるかどうか
 - 類似の名前を持つこと自体がそのまま問題になるのではないが、容認できない脅威がある場合、それを減少させるにはどうすべきかを議論。
 - 1つの方法として2年経過がある(ISO/IEC 17021/5.2.7注記)。その他の方法は可能性はあるが見出されていない。2年経過(またはその他の方法)が要求事項であるなら、利害抵触の最小化に対し疑義は発生しにくい。
 - ➔ 17021改訂へのインプットとして、注記を要求事項にするように提案する。

マネジメントシステム認証に関するWG

- 今回の議論～前回のTCでの審議文書から
 - PACからの提案:海外のクリティカルロケーションの審査、クリティカルロケーションではない海外拠点の適切な管理、ローカル認定機関の利用を強化・促進。認定審査手順の調和。
 - 国外認定に関するTFへインプット。

クリティカルロケーション: 主要な活動を行う事業所
 - 認証機関のフランチャイズ/下請けによる海外認証活動をどのように管理するか
 - 管理に関する文書を作成し、国外認定に関するTFへインプット。
- これらにより、主要な活動の有無、認証機関との関係・契約形態に関わらず、海外拠点が認定審査でカバーされるよう、IAF MD案が作成された。(国外認定に関するTFの項参照)

マネジメントシステム認証に関するWG

- IAF ID4(マーケットサーベイランス訪問)に関する調査
 - 認定機関のID4活用状況の調査を計画
 - 認証の信頼性を向上させるために、認定の新しい手法として開発されたが、認定機関の理解レベルを確認し、適切な運用を促す。

- IAF MD5見直しを行うTFの提案
 - 航空宇宙産業などの産業グループが実施している、工数表からの削減は認めないという運用についての検討を提案。
 - 賛否あり。MD5運用そのものにも問題があるという意見もあり。
 - ➔ MD5をどのように、より有効にし、誤用を減らすかを検討する。

- 認定機関、認証機関、IAFなどを騙る偽物や組織を誤解させる状況に対処するためのTFの提案

食品に関するWG

□ これまでの活動

- FSMS(ISO22000)認証に対しIAF相互承認(MLA)を拡大するために活動
 - 認定審査に関与する要員の力量、組織審査立会のサンプリングに関するIAF文書案を作成
- ISO22000に関するMLA拡大に向けての活動を終了し、議論の対象を、ISO22000も含め食品全般に拡大。

食品に関するWG

□ 今回の議論

■ ISO/TS 22003の改定

- 資格基準(qualification)ベースから力量ベースへ移行
- ISO/IEC 17065の要素の取り込み
- カテゴリの修正

■ 食品安全に関する期待される結果(Expected outcome)

- ISO9001/ISO14001で作成されたものと同じく、食品安全に関するものを作成する予定。

■ 食品安全に関するextraordinary events management(非常事態の管理)

- IAF ID3で定められている非常事態とは、食品安全分野でどのようなものであるかを議論。

ISMSに関するWG

□ WG設立の経緯と目的

- IAF相互承認(MLA)を、ISMS(ISO/IEC 27001)に拡大することを決定(2009年10月)。
- MLA管理委員会議長からの要請によりWG設立。
- MLA拡大にあたり、IAF文書の必要性を検討し、必要な場合開発する。

□ これまでの議論

- IAF文書の必要性の検討
 - 認定範囲
 - 認定機関の力量
- その他

ISMSに関するWG

- これまでの議論
 - 認定範囲
 - TCメンバーに対し、認定範囲としてあるべき形を調査。
 - 大部分の認定機関が現在、“スコープレス”を採用。
 - スコープレスあるいは、情報技術の特性に合った分類が望ましいと回答。
 - 認定範囲を定めず(スコープレス)、ISO/IEC 27006の7.1.1.1の力量分析に関するIAF文書を開発する。
 - 認定機関の力量
 - 認定の各機能に対し、ISMS認定に必要な力量を議論。
 - 各機能に対し必要な力量を示したマトリックスを作成。
 - IAF TC内コメント募集のプロセスに進む

審議文書(discussion papers)

- ISO/TS 17021-2を認定基準として採用
 - 認定基準としての採用が決定。
 - 認定の移行期間は、2012年8月15日より2年とする。

- ISO/IEC 17022:2012の取り扱い
 - Conformity assessment -- Requirements and recommendations for content of a third-party audit report on management systems
 - 認定基準として採用するか、ISO/IEC 17021改定を待つか(必
定な部分が17021に取り込まれる)を議論
 - ➔ ISO/TS 17022の適用を奨励するが。17021改定が行われる
までは要求事項としない。

審議文書(discussion papers)

□ ISO/IEC 17024:2012認定への移行

- 移行期間を2012年7月1日より3年とする。

注:TCでは2年とされたが、後で行われた総会で3年となった。

□ ISO/IEC 17065:2012認定への移行

- 移行期間を2012年9月15日より3年とする。